

## ～臨床情報・検体の研究利用に関するお知らせ～

『研究課題名 当院における大腸閉塞に対する経肛門イレウス管および大腸ステントの有用性・安全性の検討』

研究機関名 東邦大学医療センター 大森病院

研究責任者 消化器内科 職位・氏名 助教・西川雄祐

### 【研究の目的】

東邦大学医療センター大森病院消化器内科では、大腸閉塞に対する経肛門イレウス管および大腸ステントの有用性・安全性を検討することを目的として本研究を計画しました。大腸閉塞に対する減圧として、本邦では緊急手術の代替として低侵襲な経肛門イレウス管(transanal decompression tube: TDT)が以前より施行されています。また、本邦では2012年1月より大腸用self-expandable metallic stent SEMSが保険適応となったことから閉塞性大腸癌に対する治療戦略としてSEMSにより緊急手術を回避するbridge to surgery: BTSが急速に普及しています。いずれもBTSにおいて有用な手技であるが、TDT、SEMSの安全性や有用性についての報告は少ない。

この研究で得られる成果は、経肛門イレウス管および大腸ステントの安全性や治療選択の多様化の向上につながります。

### 【研究対象および方法】

この研究は、東邦大学医療センター大森病院倫理委員会の承認を得て実施するものです。

対象者: 2016年1月1日～2021年1月31日の期間に東邦大学医療センター大森病院において、経肛門イレウス管および大腸ステント留置術を受けた方。

方法: 治療時に得られた画像・動画および診療録(カルテ)から抽出したデータを解析します。

### 【研究に用いられる試料・情報】

試料: 検査の際に採取した組織検体および手術で摘出した組織検体

情報: 観察時に得られた画像、病歴、年齢、性別、狭窄部位、手技成功率、臨床的減圧成功率、手技時偶発症、手技終了から外科切除までの日数、経口摂取開始の有無、一時退院の有無、術後退院日数、総入院日数、大腸癌患者におけるステージ、病理所見などの情報

### 【研究組織】

代表施設名: 東邦大学医療センター大森病院

研究代表医師: 西川 雄祐 役職: 助教

### 【個人情報について】

研究に利用する情報は、患者様のお名前、住所など、個人を特定できる個人情報は削除して管理します。また、今回の研究で得られた成果を、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告することがありますが、個人を特定できるような情報を利用することはありません。

本研究に関してご質問のある方、診療情報等を研究に利用することを承諾されない方は、下記までご連絡下さい。その場合でも、患者様に不利益になることはありません。

### 【利益相反について】

該当なし

### 【連絡先および担当者】

東邦大学医療センター大森病院 消化器内科

職位・氏名 助教・西川 雄祐

電話 03-3762-4151 内線 77418